

「安全」信じた 体育館に津波

そこに逃げれば命助かる。そう教えられていた避難所が各地で被災した。岩手県陸前高田では避難所だった市民体育館を津波が直撃し、避難した約百人のうち助かったのは数人だけだった。生存者の証言から当時を振り返り、行政が避難所を指定する重さを考えた。

■ 湯巻く黒い水
ステーションが北側の壁が激流でえぐられた。大破した体育館。この中に巨大な洗濯機のように



津波で多数の犠牲者が出た市民体育館に立つ佐々木英治さん。1階には壊れた観客席や流れ着いた車が横たわった。岩手県陸前高田市

陸前高田 低地、屋上まで水没

黒い水が湯巻くままに。市職員の佐々木英治さんが記者を案内して、被災した市民体育館を見学させた。昨年三月十一日、体育館に隣接する中公園の避難所となつてお



津波の第一波が海岸の松原を越え、建物が流失する市街地。写真より右側の場所に市民体育館があった。昨年三月十一日午後三時26分（陸前高田市提供）

■ 身内を捜して
だが、月入は二万。松原地区は毎年、五、六人が溺死する。津波の第一波が海岸の松原を越え、建物が流失する市街地。写真より右側の場所に市民体育館があった。昨年三月十一日午後三時26分（陸前高田市提供）

避難所指定

地震後の津波や火災から避難者の命を守るため、自治体は地域防災計画に基づき、学校のグラウンド、公園、緑地などを避難所と定める。避難所指定は、避難所が被災した場合は、被災市町村が避難所を指定する。被災市町村が避難所を指定する。被災市町村が避難所を指定する。

高台へ避難路 ■ 大学と協定

中部でも見直し
東北地方の各地で避難所の二カ所を見直し、海沿いでも避難所を見直し、大規模な協定を結んだ。愛知県津島市は、低地避難所を見直し、全三十三の学校などを地震・火災時、十カ所が海抜〇以上の「避難所」として、高台に位置する変更が、津波を指定した。また、適切な課。県の予備では、地震高台がない地域は道路が、発生から二十分後第一波避難場所とされており、が到達する地域もある。い

「備える! 3.11から」が本に

本連載が「備える! 3.11から」のタイトルで今年6月29日から発売されます。昨年5月の連載開始から今年6月までの掲載分を再構成し、ビジュアルでより読みやすくとめてあります。B5判、オールカラー、224頁、定価1800円（税込み）。問い合わせは中日新聞出版部＝電052（221）1714＝へ。

次回は、9月3日に掲載します。



なぜ、多くの方が安全だと思った避難所で危険にさらされたのか。自治体は今回の教訓を得て、どのように避難計画を見直すべきなのか。震災後に被災地に入ったNPO法人環境防災総合政策研究機構（東京）の松尾一郎理事（56）＝写真＝に聞いた。

NPO法人環境防災総合政策研究機構

松尾一郎 理事

高さ、逃げやすさ 再評価を

避難所の安全性 — 識者に聞く

「今回の震災で浮かび上がった避難所の問題は、昨年四月、岩手、宮城

両県の被災者四百人に、地震から津波が到達するまで、どう行動したかを聞いた。92%

の人が何らかの避難行動を取り、そのうち51%が自治体が指定した避難所に逃げていた。高台や高いビルよりもはるかに多い割合だ。その上、避難所に向かった人の11%が最終的に屋上に上り、70%近くが津波がギリギリの所まで

迫って恐怖を感じていた。避難所は必ずしも安全な場所ではなかった。

「実際のどのくらいの避難所が被災したのか。文部科学省の調査では岩手、宮城、福島の子の学校

二千二百四十六校が津波で被災した。学校の多くは指定避難所。相当数の避難所が被災したことは間違いない。自治体にとっては、学校や体育館などの公共施設を避難所にする

のが簡単。「津波で一、二階に浸水しても、学校なら三、四階がある」という程度で決めていたのではないか。

全体で何力所の避難所が被害を受けたか実数は分からない。総務省消防庁がきちんと取りまとめてほしい。

「今後の避難所は高台ばかりになるのか。被災者への調査では、最初の避難先に指定避難所を選んだ割合は十〜三十代の若い世代が30%程度と少なかったが、年齢が高くなるほど増える傾向があった。脚力のある若い人はより安全な高台に逃げようと思うだろうが、高齢者は足腰が悪かったり、車いすを使っていたりする。高台に避難所を設けるなら、高齢者のために緩やかな避難路や夜間誘導灯などの整備も必要になる。車に乗らない人のため、平野部の空き地に土を盛り上げて人工の高台を造ったり、避難タワーを設けることも考えないといけない。自治体は、各避難所が津波、水害、地震とどんな種類の災害に耐えられるか、専門家を交えて再評価してほしい。

か。中部地方の避難所は安全か。東海、東南海、南海の三連動地震では、場所によって二〇〜三〇分の津波が来ると言われている。そのクラスをカバーできる避難所でないため。もう一つは二〇〇〇年の東海豪雨や〇八年の岡崎ゲリラ豪雨などの水害への備え。名古屋周辺は庄内川など大規模河川が多く、浸水エリアに入っている避難所もあるはずだ。最寄りの避難所がどんな災害に耐えられるか。水害は大丈夫でも津波は耐えられないとか、そうした情報を住民も知っておいてほしい。